

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

才 角

第 2 号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月2日（水）9:30～11:30、才角区長場にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



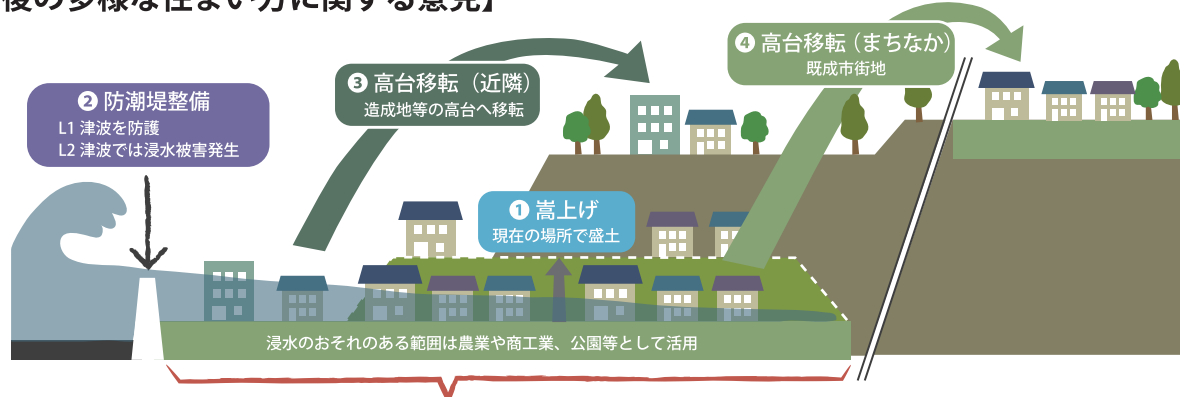
【地区としての復興の方向性】

- 人とのつながりを大事に文化と自給自足のまち
- 地域の集まり・つきあいを大切にしたいまち
- 災害に強い、大切な人・モノを守るまち

・神社は守りたい

・地区のお金では復興できない
ので助けて欲しい

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討

※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

人気!

① 嵩上げ

- ・できるかぎり嵩上げて
現地再建
- ・嵩上げしなくても自分で
建てる
- ・嵩上げしなくても住める
のが理想

- ・買い物が不便で、日常生
活が送れない

② 防潮堤整備

③ 高台移転（近隣）

- ・地区内に適した場所が無
さそう

人気!

④ 高台移転（まちなか）

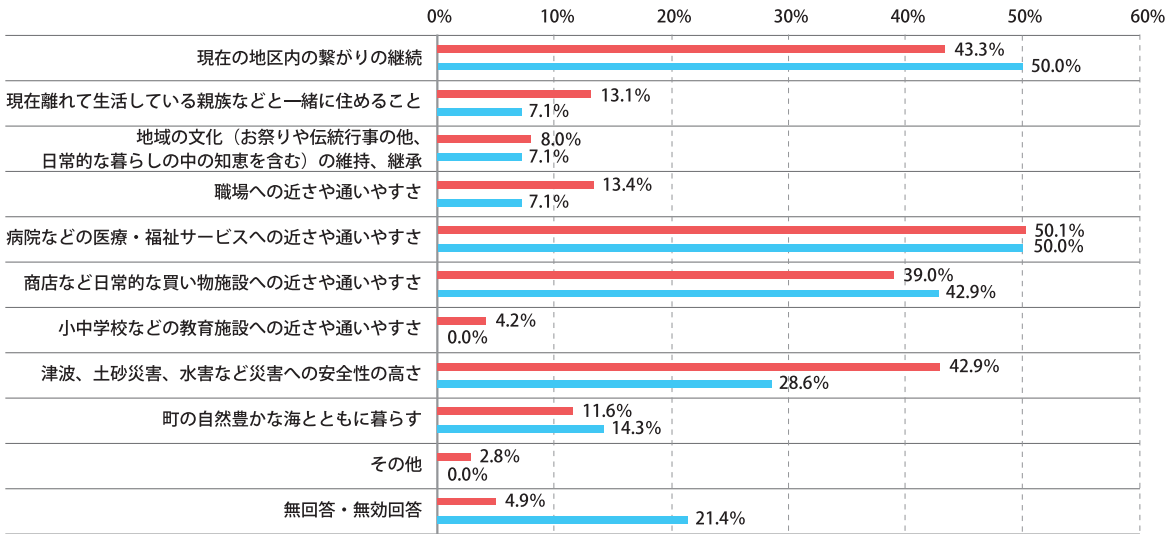
- ・便利なところに引っ越す
（町外、宿毛とか）
- ・安全な場所で病院のある弘見

- ・狭い敷地は生活しにくい
- ・今、ポツンとしたところで暮
らしているので、団地みたい
に家が集まったところは住み
づらい

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

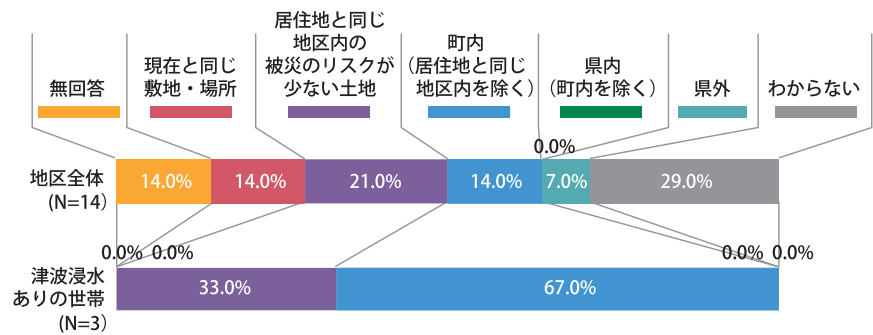
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



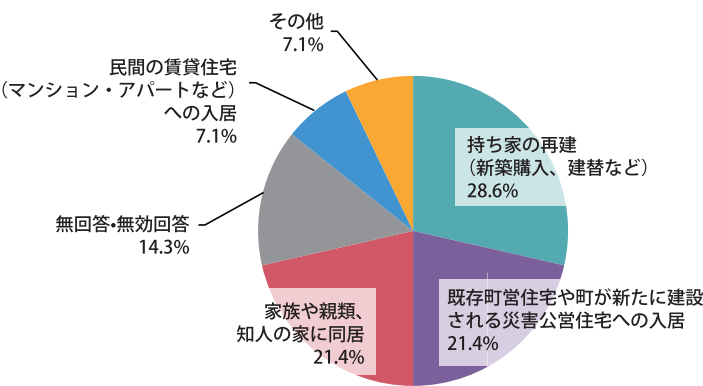
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。才角地区でも「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」、「現在の地区内の繋がりの継続」が 50.0% と最も多くなった。次いで「商店など日常的な買い物施設への近さや通いやすさ」が 42.9% となった。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、才角地区全体では「わからない」が 29%、次いで「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 21% となった。津波浸水の予想される世帯では「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 67% と最も多く、次いで「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 33% となっている。

●復興の際の住まいの形態 (N=14)



●復興の際の住まいの形態については、「持ち家の再建」28.6% が最も多く、次いで「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」、「家族や親類、知人の家に同居」が 21.4% となっている。「無回答・無効回答」も 14.3% となっている。